二〇二二年度 置賜地区高校生

「地域と私たちの未来を考える」第五回小論文コンテスト

# 秀小論 集

「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、 地域の未来と私の生き方を考える」

# はじめに

地域に育つ当事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることは、どのような進路 少ない「若者流出」があげられています。こうした状況下において二年後に進学・就職を迎える高校二年生が、 れます。そして、このような人口減少の要因の一つに、高校生の進学・就職で県外に出て、戻ってくる人が 地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、 近年日本の人口が減少する中、私たちの住む置賜地域も確実に人口が減少しています。このまま推移すれば、 地域の安全・安心や伝統・文化の維持存続が益々懸念さ

ます。応募された生徒の皆さんとご指導いただいた先生方に心から御礼申し上げます。 高校二年生を対象に実施いたしました。テーマは「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域 の未来と私の生き方を考える」です。コロナ禍の中でも、八校から総数七十八点の応募があり、喜んでおり 以上のような趣旨から、「置賜地区高校生『地域と私たちの未来を考える』第五回小論文コンテスト」を、 を選ぶにしても非常に大事なことです。

校二年生の今、この小論文に取り組んだ経験はこれから先必ずどこかで役立つものと確信しています。 様々な視点から提案し、また自分の生き方を模索しており、趣旨に沿った小論文をまとめてくれました。高 たものです。高校生や地域の方々に広くお読みいただき、地域の未来を共に考えていきたいと思います。 この小冊子は、七名の審査により優れた小論文とされた、最優秀賞一点、優秀賞四点、入選六点を収録 小論文を読みますと、資料編を活用しあるいは自分の体験や知見を基にして、この地域の未来のあり方を

令和四年十月十七日

公益社団法人 米沢有為会 高校生小論文コンテスト実行委員会

山形県立米沢興譲館高等学校 オ沙中央高等学校	それ中央高等学校米沢中央高等学校	<ul><li>○入 選</li><li>山形県立米沢興譲館高等学校</li></ul>	<ul><li>★沢信用金庫理事長賞</li><li>山形県立小国高等学校長井商工会議所会頭賞</li><li>以下、公園都市推進協議会会長賞</li><li>以下、公園、大学園都市推進協議会会長賞</li><li>以下、公園、大学、大学園都市推進協議会会長賞</li><li>以下、公園、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、</li></ul>	◇最優秀賞 山形県立小国高等学校はじめに
二年	"高等学校 二年二年		· 校 校 校 二二二年 年 年	-校 二年
朝	三嶽後	& 吉 石	二伊安今	<b>-</b>
<u> </u>	屋本藤	田 井	宮 東 部	柳:
	俊 佳 音	計 樹 屋 里 介	緋 美 悠 向 日	帆
凜	介菜 衣 : : :	王 介 :::	毬 優 花 葵 : : : : 9 7 6 4	花 :

# 地域の心をつなげる架け橋に

形県立小国高等学校 二年

柳鄉桃花

ていきたいと考えていた一人だ。「田舎を離れて都会に住みたい」私も将来地元を出

し、社会貢献をしている地域の方々の生き方に胸が熱た、私の出身地である愛媛県久万高原町も、若者流出た。私の出身地である愛媛県久万高原町も、若者流出た。私の出身地である愛媛県久万高原町も、若者流出た。私の出身地である愛媛県久万高原町も、若者流出た、私の出身地である愛媛県久万高原町も、若者流出た、社会貢献をしている小国町へ留学を決意した理由は、地域の方が自ら企画し、運営する活動に興味を持ったからの方が自ら企画し、運営する活動に興味を持ったからして、小国町で自分の得意なことをライフワークとして、小国町で自分の得意なことをライフワークとして、小国町で自分の得意なことをライフリークといる地域の方々の生き方に胸が熱により高いというという。

すい町づくりのためにできることは何か。離れた若者のI・Uターンを促進し、みんなが住みや活気ある町にしたい」と強く思った。では、一度町をには挑戦したい」「私のふるさとである久万高原町もには挑戦したい」「私のいるさとである久万高原町も留学前の私は、やりたいことがあっても手を挙げられるなった。改めて自分の生き方を見つめ直してみると、くなった。改めて自分の生き方を見つめ直してみると、

報提供をしていただくということもあり、認知度は低 している人がほぼ利用しているので、 活動を行うサービスを提供したりするなど数え切れな たり、ファミリーサポートサービスという、育児を行 子育て医療給付制度により十八歳まで医療費を助成し 調査し、SNSを活用して情報を発信したい。 い。まずは妊婦さんや保健福祉課、 しかし、ファミリーサポートについては、妊娠後に情 いほどの制度がある。 いたい方と手伝ってほしい方が会員となり相互に援助 い。そこで、将来を担う私たち高校生にも発信をした それは二つある。一つ目はPR活動だ。小国町には、 医療給付制度については、 保 育園のニーズを 認知度が高

# 優秀賞

孤独感を緩和する意見交換の場を作りたい。町役場のを生かし、妊産婦さんの妊娠・出産・育児への不安やりが発言できる場づくりの大切さを学んだ。この経験サミットの運営を経験し、グループワークで一人ひと二つ目は、交流の場の創出だ。今年、全国小規模校

りの大人を自然に笑顔にするなど、影響力は大きい。町」として、環境整備をしたい。子どもの存在は、周集まり育児の情報交換をし、「ともに子育てができる方々などから助言をいただきながら、いつでも気軽に

サミット開催に向け、自ら行動を起こしたい。題解決の糸口が拡大する。地元愛を生み出せるような育ったとはいえ、考え方は多様であり、対話により問活性化に関する意見交換の場を作りたい。同じ過疎でまた、来年度、在籍校でもサミットのような地域

りと幸せを感じられるよう、楽しみながら挑戦していの久万高原町でも、住んでいる人とともに、自信と誇上げ実践する活動に参加する。小国町でも、ふるさと残り半年の留学生活。小国町でプロジェクトを立ち

# 学園都市推進協議会会長賞

# 自然が繋ぐ地域の輪

山形県立小国高等学校 二年

向□ 日\* **葵**\*

のことだった。

ないとも思うようになった。つまらない、面倒くさい、小国には面白いことが何もつまらない、休日はほぼ休息の時間になった。同時に、なくなり、休日はほぼ休息の時間になった。同時に、しかし、しだいに時間的にも精神的にもゆとりが少

小さい頃に感じたワクワク感が再び溢れてきた。に触れたりした。未知の小国・新しい小国の発見で、国町や飯豊町の素敵な大人に出会ったり、動物や自然は、探究学習だ。「地域に浸る」をテーマとして、小

そして久しぶりに今年の夏、私は山へ入った。自然た。しかし、豊かな自然や優しい人たち、雪国ならではの体験…それら全てを全身で楽しめるのが小国町なはの体験…それら全てを全身で楽しめるのが小国町なこの過去の体験を自分自身が肯定できた瞬間だった。 二つ目は、地域みらい留学生との出会いだ。魅力に二つ目は、地域みらい留学生との出会いだ。魅力に

経験を持つ高校生の私だからこそ発信できることがあいる、と。私は、本が好きで絵を描くことも好きなのだが、それを活かして、小さい子にもわかりやすい絵だが、それを活かして、小さい子にもわかりやすい絵だが、それを活かして、小さい子にもわかりやすい絵の恵みや協働体験の喜びを存分に味わった。そしてふの恵みや協働体験の喜びを存分に味わった。そしてふ

がるのではないかと考える。る。それが、ひいては、この置賜地区の若者回帰に

について考えを深め合う全国小規模校サミットがあっ全国から様々な高校が集まって、自分達と地域の未来わかりやすく記録する方法だ。先月、小国高校主催で、どに、会議や講話の内容を、文字とイラストを使って戦した。グラフィックレコーディングとは、模造紙な戦し、手始めに、グラフィックレコーディングに挑私は、手始めに、グラフィックレコーディングに挑

確になり、一筋の大きな光が差し込んだように思われ喜びを味わうとともに、マイプロの実践内容がより明感動で一杯になった。この体験を通して、作り上げるとの協働で、発表内容を凝縮できたときは、達成感ととの協働で、発表内容を凝縮できたときは、達成感とた。各校の取り組みを瞬時に可視化するこの役割は、

えたい。私は今、期待でワクワクしている。化に繋がるはずだ。小国町の魅力を私らしい感性で伝することで、小国町への理解が促進され、それが活性地域活性化の対話や協働の様子や地域の魅力をPR

# 米沢商工会議所会頭賞

# 米沢の明るい未来を守るために

米沢中央高等学校 二年

安部悠花

支えていきたいと強く思う。る。そして、教育現場から、自慢の故郷米沢の未来を私は将来、教員として地域に貢献したいと考えてい

信が重要であると私は考える。下で、持続可能な地域とするために、主体的な魅力発下で、持続可能な地域とするために、主体的な魅力発しかし、米沢市は人口減少の渦中にある。この状況

口流出の背景にあると考えられているようだ。施のアンケートによると、良質な雇用機会の不足が人若者の転出超過であるとされている。また、総務省実して約三割減少すると推計されている。この原因は、米沢市では、二〇四五年の人口が二〇二〇年と比較

有給休暇や女性の育児休暇の取得率は、全国平均を上

ていることが分かる。

資料を見ると、山形県の年次

だが、資料から、山形県の労働環境は比較的恵まれ

の周知不徹底が原因だと推測した。

も、全国トップ水準である。それにもかかわらず、若は良質な雇用機会を求めて、都市圏へ流出する。そも、全国トップ水準である。それにもかかわらず、若回っている。安定した収入が得られる正規雇用の割合

夫しながら発信することの意義を身をもって感じた。有名にしようと、策を練った。熟考の末、幅広い世代か有名にしようと、策を練った。熟考の末、幅広い世代から関心を得るためにキャラクターを作成し、扮装してら関心を得るためにキャラクターを作成し、扮装してらえて、大きな達成感が得られたことを覚えている。ちえて、大きな達成感が得られたことを覚えている。ちえて、大きな達成感が得られたことを覚えている。ちえて、大きな達成感が得られたことを覚えている。以前、私は米沢に関する探究学習を通して、数多くの以前、私は米沢に関する探究学習を通して、数多くの以前、私は米沢に関する探究学習を通して、数多くの

得した若者の回帰、県外からの移住を促進することが祭りや遺跡など、自ら発見した魅力をガイドやSNS祭りや遺跡など、自ら発見した魅力をガイドやSNS無模が小さいため、いかに回帰を促進するかが鍵になると思う。自治体による情報発信に加えて、次世代をると思う。自治体による情報発信に加えて、次世代をの結果、若者の定着、他県進学で専門知識や技術を修の結果、若者の定着、他県進学で専門知識や技術を修の結果、若者の定着、他県進学で専門知識や技術を修の結果、若者の回帰、県外からの移住を促進することが得した若者の回帰、県外からの移住を促進することが得した若者の回帰、県外からの移住を促進することが得した若者の回帰、県外からの移住を促進することがの結果、若者の定着、他県進学で専門知識や技術を修

るために必要だと思う。

できるはずだ。

# 私たちの地域と未来

山形県立長井高等学校 二年

東美優

 高生も早い段階から地域について考え、よい発見がで、表者として出向き、地域の良いところを挙びさせていきたい。そのために中学校や高校へ出行業として出向き、地域の良いところを挙げてもら前授業として出向き、地域の良いところを挙げてもら前授業として出向き、地域の良いところを挙げてもらが大好きだ。そんな活動ができれば、次世代を担う中が大好きだ。そんな活動ができれば、次世代を担う中が大好きだ。そんな活動ができれば、次世代を担う中が大好きだ。そんな活動ができれば、次世代を担う中が大好きだ。そんな活動ができれば、次世代を担う中が大好きだ。そんな活動ができれば、次世代を担う中が大好きだ。そんな活動ができれば、次世代を担う中が大好きだ。そんな活動ができれば、次世代を担う中が大好きだ。そんな活動ができれば、次世代を担う中が大好きだ。そんな活動ができれば、次世代を担う中が大好きだ。

して働くことができたら、他地区のお店と提携して、する上での難点も多い。そこで、私が地元の公務員とグでは実際に手に取って選ぶことができない等、購入要があり、不便さを感じるからだ。ネットショッピンざ他地区へ行ったりネットショッピングしたりする必可には若者向けの服を売っているお店が無く、わざわ町には若者向けの服を売っているお店が無く、わざわ町には若者向けの服を走っているお店が無く、わざわする上での乗点も多い。そこで、私が住む高島

夢に向かって頑張りたい。

の取り組みにより、地域の住民との交流も図れ、また移動販売として町内を回るような取り組みを行う。こ若者の流行を取り入れたアイテムをピックアップし、

県内の経済の循環も促進できる。

て、将来は私の大好きな高畠町を活気づけられるよう、て、将来は私の大好きな高畠町を活気づけられるよう、良さを一つでも多く見つけられるようになったら、人と人との心の距離が近いという地良さを一つでも多く見つけられるように積極的に地域で学んだことを山形に還元し地域活性化に繋がるような流れをつくりたい。また私自身も地域の人たちに寄り添い、暮らしやすい地域づくりをしていこうと思う。そのためにも、これからの高校生活においても地元のそのためにも、これからの高校生活においても地元のそのためにも、これからの高校生活においても地元のそのためにも、これからの高校生活においても地元のそのためにも、これからの高校生活においても地域の人たちにあるよう、で、将来は私の大好きな高畠町を活気づけられるよう、で、将来は私の大好きな高畠町を活気づけられるよう、で、将来は私の大好きな高畠町を活気づけられるよう、大野ない、

きるのではないかと考える。

# 留学を通して考える過疎地域と

小国町

山形県立小国高等学校 宫\*

緋♡ 毯。

私が小国町にきてから沢山聞いた言葉だ。「なにも なんでなにもない小国を選んだの?」

ろう。

うに。しかし、その写真を友人に見せたとき、「初め て知った」「聞いたことない」という言葉を何度も耳 カメラで写真を撮る。その光景をすぐに思い返せるよ してみると高校生の地元への関心の薄さに気づいた。 ってから、未開拓の地に胸を躍らせていたが、いざ暮ら に私は「留学」することを決意した。地方留学制度を知 ない」という言葉に私は変わらず疑問を抱いている。 休日や放課後に小国町を案内して頂いたとき、私は 去年の夏、大阪。人口七千人の山に囲まれた小国町

> 過疎化、若者不足。これらに共通するものは若者が地 に挟まれた一本道。そんな自然豊かな小国町で育った 方に興味を持つことなく、都市に流出していくからだ しかし、それは小国町に限った話ではない。人口減少、 のに、知らない事が多いのはもったいないと思うのだ。 や、音をたてて流れる透き通った川、風に揺れる稲穂 ているわけではない。ただ、刻々と表情を変える山 にしたのだ。私はそのたびにショックを受けていた。 私はここで地元に関心が薄いことを非難しようとし

何気ない日常が、通学でさえも未だに心躍るのだ。さ 朝夕、山の濃い甘い匂いが鼻を通る。私はこの匂いと 誰よりも留学を楽しんでいる自信がある。小国町では 学が始まって半年が経とうとしているが、私は全国 れを存分にできるのは、高校生だけだと思うのだ。留 り、そこでしか経験できないことを目一杯楽しむ。そ のんびりした町の景色を堪能できる時間が大好きだ。 地方で、その土地の魅力を肌で感じ沢山の大人と関わ だから私は地方留学を推したい。若者を必要とする

入 選

して十七年間で今が最も「笑っている」時間が長い。 れる「楽しい」に私は留学の醍醐味を感じている。そ 山登りもしたりした。こんな充実した毎日の中に生ま お菓子パーティー、遊びの作戦会議、サイクリング、 な限り参加したり、昨年生徒が作ったひみつのきちで らに休日や放課後には、 そんな私は留学を通して地元への関心の薄さ、若者 町内のイベントがあれば可能

だ。実際にSNSで発信してみると小国町について興 沢山の人に地方の魅力について「知ってもらう」こと

達にできることはその土地の魅力を「伝える」こと、 の流出から起こる地方過疎化の課題を感じている。私

味を持ってくれた人から連絡が来た。

だから私は「なにもない小国」で日常を面白くデザイ とって、小国は若者を中心とした企画や、主体的にや ンすることが存分にできるのだ。 りたいことを実現できる環境があるように思われる。 いるかっこいい大人をこの目で見たからだ。高校生に 地方に興味を持っている。それは地域のために動いて 私は今、過疎化、それに伴う教育、 地域 、振興など、

# リモート技術の普及で住みよ (V

山形県立米沢興譲館高等学校 井一くないでは、

影が現れる。春夏秋冬、その姿を変える西吾妻山だ。 美しい故郷も、今、人口減少の危機にある。 しかし、日々自然の移ろいを感じることができる私の 通学の途中、交差点を曲がると、目の前に大きな山

然な流れとされてきた。もちろん、地元は大切である。 でも、地元では叶えられない夢がたくさんある。この 者たちが進学や就職のため他地域に出ていくことは自 た交通インフラも脆弱で住みづらい。高校卒業後の若 方ないことだ。置賜は学校や事業所の数が少なく、 流出が問題視されているという。しかし、これは致 人口減少は急速に進行しているが、特に、 若年層

とだろう。 ような葛藤を抱える高校生は、私を含め、多くいるこ

だが、近年、とりわけここ数年の感染症への対応で発達した情報通信技術は、このディレンマを解消して段がより身近になってきた。こうした技術を利用すれ段がより身近になってきた。こうした技術を利用すれば「住みよい置賜」の実現とともに、若者の流出を抑度がより身近になってきた。こうした技術を利用すれる。

私は以前、探究学習でリモートワークを使った新時代の働き方を調査した。時所を選ばないリモートワー外にオフィスを構える企業がリモートワークを導入す外にオフィスを構える企業がリモートワークを導入すれば、置賜の若者たちにとっては、地元にいたままでれば、置賜の若者たちにとっては、地元にいたままでれば、置賜の若者たちにとっては、地元にいたままでれば、置賜の若者たちにとっては、地元にいる。

え得る。実際、このところ大学ではリモート授業が増リモートの技術は働き方だけでなく、学び方をも変

えている。

の生産過程への導入が想定できる。より能率的で住みと、各種行政手続きや、置賜の一大産業である農工業リモート技術の活用を生活全体に敷衍して考える

よい市民生活が実現可能だ。

ではいるがら、課題も多い。やはり、人と直接会うが重要なのだ。 しかしながら、課題も多い。やはり、人と直接会うが重要なのだ。、 ことでしか得られない経験もある。例えば、置賜の大は夏でも涼しく、企業や学校の研修に最適な場所だ。 は夏でも涼しく、企業や学校の研修に最適な場所だ。 は夏でも涼しく、企業や学校の研修に最適な場所だ。 は夏でも涼しく、企業や学校の研修に最適な場所だ。 は夏でも涼しく、企業や学校の研修に最適な場所だ。 は夏でも涼しく、企業や学校の研修に最適な場所だ。 は夏でも涼しく、企業や学校の研修に最適な場所だ。 は夏でも涼しく、企業や学校の研修に最適な場所だ。 は夏でも涼しく、企業や学校の研修に最適な場所だ。

私が将来、地元に住み続けるかどうかは分からない。私が将来、地元に住み続けるかどうかは分からない。

# 置賜っ子」を増やそう!

九里学園高等学校 二年 吉は

# 田だ 樹は 里り

沢 どの魅力がある地域の存続が危ぶまれている。 山 置賜は少子高齢化が進み、年少人口は一割しか 私は自然豊かで四季を感じられ、 [の魅力があるこの置賜が大好きだ。しかしこれほ 食べ物が美味しく 13 な

では置賜を担う人たちがいなくなってしまう。 上が就職や進学を機に県外に移住している。このまま いう高校生が約四割にも上り、実際に高校生の半数以 い。市のアンケートによると、卒業後に転居したいと

置賜に戻りたいという人が増えるかもしれない。魅力 えたい。そうすることで、この地域で生きていきたい、 要だと思う。まずは地元の人に向けて置賜の魅力を伝 う。だから置賜の魅力を再発見し、発信することが必 ていない人が多いということが一つあげられるだろ 若者が県外へ流出する背景に、地元の魅力に気づけ

> 語ることができ、 てもらえる機会が増えるだろう。 他地域の人々にも置賜の魅力を知

を知った若者は他県に行った場合でも、

他県の人々に

私は地域の魅力を発信するためにとくに「食」に着

ことができた。有機農業という魅力を知ることができ 打った。さらに地域のお母さんたちの温かさも感じる 料理も味わった。料理は地域のお母さん方に作ってい ように感じた。そして、有機栽培の野菜を使った手 くりや野菜づくりに非常に興味が湧いた。土を触って 続だった。体に必要な栄養や健康を見据えた「土」づ 機農業に初めて出会ったのは、探究学習でのフィー ただいたもので、通常栽培をした食材よりも旨味 環境をつくりあげていて、まさに生きている土である 豆のようなにおいがした。土の内部は腸内環境と同じ みるととても熱く40度もあり、とてもふかふか ドワークで訪れた時である。そこでは驚きや感動の連 地であり、有機農業が活発に行われている。高畠 目して活動を行っている。高畠町は有機農業の発祥 食材本来の美味しさが活かされた料理に舌鼓を で納 ル

ている。身近に有機農業や魅力的な食材があることを レットの配布などをする予定で、今はその準備を行っ メニューの検討、子ども達やその家庭に向けたパンフ 子ども達を対象とした出前授業や学校給食で提供する 機農業の魅力を伝える活動を行っている。 現状を知った。そこで私は 一方で地元の人々にその魅力が広まってい 高畠町の人々に向け 具体的 で有 ない

上げたい。 える機会をつくり、「置賜っ子」を増やし置賜を盛り なった。このような経験を沢山の子ども達にしてもら 魅力が確かに存在していることに気づくきっかけに と思う。しかし今回の経験はこの置賜に誇りに思える 私はまだまだ気づけていない置賜の魅力があるのだ より知ってもらえるように頑張りたい。



# 医療」 からの発展

米沢中央高等学校 二年

住しており、将来は臨床検査技師になるという明 目標を持っている。その目標を達成するために、 私は置賜地区の中でも東置賜郡に属する川 後章 音ね 西 町 衣ぃ

に着目する。医療従事者という職種は人気があり、 い。さらに、 しかし、医療系は人気が高い学部であるにもかかわら の学年でも多数が希望進路の一つとして考えている。 まず、私たち高校生にとって身近である大学の学部 山形県内に医療系の学部がある大学は三校しかな 私が目標としている臨床検査技師や、診

流出問題を「医療」という視点から考えていく。

くに追い込まれている。そこで私は、

置賜地区の若者

医療従事者

スによる感染症の影響で病床が圧迫され、

の人手不足が問題になるなど、日本の医療は今限

では日々勉学に励んでいる。近年、新型コロナウイル

業は人気があるため、多数の学生が県外へ流出してしまい。このに進学できる一方、臨床検査・診療放射線技師事が分かった。そうなると、医師や看護師を目指す人療放射線技師を養成する学部がある大学は存在しない

まうと考えられる。

職率をこの事業で向上させることは難しいと考えられ 師や放射線技師を始めとする医療従事者の山形県内就 は決して多くないようだ。このことから、 大学は共通して関東圏であり、 査・放射線技師を養成する学部がある大学は、 医療系の学部があることが分かった。しかし、 部がある大学は二十七校中十二校と、半分近い大学に 系の学部があるか調べてみた。その結果、医療系の学 に着目する。 次に、山形県と大学等とのUIターン就職促進協定 帝京大学、 協定を結んでいる二十七の大学に、 東京工科大学のみだ。また、これらの 東北地方からの進学者 臨床検査技 臨床検 駒澤大 医療

これらの問題点を踏まえて、私は二つ解決策を提案

べば、山形県からの進学者が多いため、Uターン就職ぶことだ。特に東北地方のそのような大学と協定を結成する学部がある大学とUIターン就職促進協定を結する。一つ目は、臨床検査技師や診療放射線技師を養

者が増えるだろうと考える。

せる長所があると考える。
はることで、山形県内へのUターン就職率をより向上さい形県内の就職先を紹介する際、その待遇の説明をすることだ。一つ目のUIターン就職促進協定で「一つ目は、山形県出身者が山形県内に就職する際、

望したりするなど、 就職先について調べたり、 きたいと思う。 いと考えている。そのため、 精 私は、大学卒業後は山形県内 一杯取り組んでいきたい。 目標を達成するために、 山形県での就職を視野に入れ 山形県の 大学在学中は、 一の医療機関に就職 病院での実習を希 今できること 山形 てい した 県



# 新しい時代での地域おこし

獄

# 本も 佳ゥ 菜は

着し始めています。またコロナ禍で減少傾向であった とで、今ではリモートワークが新しい働き方として定 モートワークを一時対応という形を含めて導入したこ 新型コロナウイルス感染症により多くの企業がリ

ます。私は今の状況が置賜の人口減少を解決する一つ の鍵になるのではないかと考えました。 も仕事ができるような働き方が増えていくと予想され りました。この傾向から今後オフィスではなくどこで ことが、ランサーズ株式会社の調査により明らかにな フリーランス人口は前の年より約六百四十万人増えた

ゆとりある置賜 スの仕事をしている人達にとって、とてもいい環境 私達が住む置賜地域には、豊かな自然、 深い歴史など様々な魅力があります。このような の環境は、 リモートワークやフリーラ 美味しい食

> り組みです。この地域おこしをするにあたって、二つ ・フリーランスの仕事がしやすい地域として、地域おこフリーランスの仕事がしやすい地域として、地域お・・・ 働いている人の中では、ゆとりある環境で仕事をした 所にして、新たな移住者を増やすことを目的とした取 をリモートワーク、フリーランスの仕事をしやすい場 になるのではないでしょうか。 しをすることを提案します。この取り組みは置賜地 いと考え、都市から地方へ移住する人が沢山います。 これらの傾向から私は置賜地方をリモートワーク、 実際にフリーランスで

と考えました。 賜地方に移住したいと考える人が増えるのではないか 度を設けたり、リモートワークでは人との繋がりがな することです。この二つの取り組みを実施すれば、置 くなり孤独を感じるようになったという声が多くあ たので、地域で情報交換やコミュニティの場所を提供 フリーランスを対象とした置賜地域の移住費用支援制 まず一つ目は、手厚い移住支援制度を作ることです。 のポイントがあります。

す。LASSICが実施したリモートワークのデメ なる」「光熱費などの自己負担額が増加してしまった\_ リットをまとめたアンケートでは、「家族の目が気に やレンタルスペースなどのサービスを増やすことで

すれば、デメリットを解決することができ、沢山 などの意見が見られました。これらのサービスを展開

ロの移

私達一人一人の意識が重要になると感じました。 いました。私達の地元である置賜の未来を作るには、 みを実施していくことが、第一歩なのではないかと思 いくためには新しい時代の傾向を知り、新しい取り組 うな先の見えない現代で置賜地域を守り、発展させて 住者を獲得できるのではないかと考えました。 私達は今、時代の変わり目に立っています。このよ

ある。



# 米沢の未来を創る

山形県立米沢興譲館高等学校

<u>=</u>, 屋ゃ

然や歴史を次世代に渡って守り抜く担い手は私たちで から受け継がれている米沢の伝統。この四季折々の自 上杉の城下町、米沢に映し出される春夏秋冬。

と考えてしまいがちだ。 として、都市部には地方よりも多様な学びに対応した 者の約五十五%を超える人達が県外に出ていく。現状 環境が整っていて、周りからの刺激も大きい。また、 地方の衰退が深刻化している。山形県では、高校卒業 何となく都市部の方が地方よりも様々な就職先がある 近年、地方から都市部への若者の流出が顕著に現れ

内に自分の町の魅力をしっかり理解出来るような環境 戻って就職したいと思えるように、この中・高校生 そこで、都市部で学んだ学生が再び自分の故郷 道えていくことによって米沢の未来はより望ましいも 増えていく「探究活動」があり、私は「地域振興」とい していく「探究活動」があり、私は「地域振興」とい た。私たちにはまだ知らない米沢の魅力が沢山隠れて た。私たちにはまだ知らない米沢の魅力が沢山隠れて た。私たちにはまだ知らない米沢の魅力が沢山隠れて た。私たちにはまだ知らない米沢の魅力が沢山隠れて た。私たちにはまだ知らない米沢の魅力が沢山隠れて かる。その魅力を掘り出し発信していくことについて学 たちの使命である。先ずは一人一人が自分の地域につ たちの使命である。先ずは一人一人が自分の地域につ たちの使命である。先ずは一人一人が自分の地域につ たちの使命である。先ずは一人一人が自分の地域につ たちの使命である。先ずは一人一人が自分の地域につ

刻になっている。主な理由として男女の格差が以前にも大きな問題になっており未婚化、晩婚化の進行が深問題は解決するのだろうか。最近では「少子高齢化」われているが、若者が故郷に戻り就職するだけでこのため大学と連携しながらUIターン促進が意欲的に行ため大学と連携しながらUIターン促進が意欲的に行

のになる。

となって連携ができ、双方に利点が生まれる。未来 を育児をする親世代に向け、架け橋となることで一丸 輪が広がる。定年を迎えてもまだ働きたいという思 育児アドバイザーとして受け入れることでより育児 る。これからは育児に不安を持つ親に対して気軽に相 比べて減少し、 富なノウハウを持っている。そのような方々を地域 例えば定年で仕事を退職した方々は、育児に対して豊 面をより多くの人に知ってもらうことが大切である。 談することが出来る様な体制を一層構築し、 を向ける女性が多くなったことが挙げられる。 バトンを受け取る子供たちの視点に立つことは重要な 山形では育児に対する支援に大きな力を入れて 女性 の働く環境が整えられ、 山形の一 仕事に目 そんな

いきたい。

うに地域の一人として積極的に挑戦し、未来を創ってけ、そして米沢にしかない魅力をいつまでも残せるよ世代を超えて誰もが米沢を愛し、愛される町であり続世代を超えて誰もが米沢はとても温かい町だ。これからの私たちの住む米沢はとても温かい町だ。これからの

要素である。

# 自分の未来を考えること

九里学園高等学校 二年

# 朝\* 一\*\*

凜が

化による地方過疎化や地域の形骸化を食い止め、地域代がこの問題に向き合い、考えをもつことが少子高齢で人口流出による地方過疎化問題を学びました。し業で人口流出による地方過疎化問題を学びました。し業の不足といった問題が起こります。また、学校の授設の不足といった問題が起こります。また、学校の授設の不足といった問題が起こります。また、学校の授

減少すると国立社会保障・人口問題研究所の推計で予一〇七万人いる人口が二〇六〇年に五十九万人にまです。次に人口流出に目を向けると、二〇二〇年に約身近な場所でも高齢化が進行していることがわかりまり、私が住む米沢市でも老年人口割合三十四・三%であ山形県は令和四年に老年人口割合三十四・三%であ

史を学び、

紅花という文化を守り続けるために活動

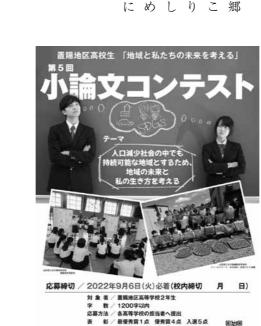
発展を促すきっ

かけになると思います。

気持ちが自然と生まれてきます。今実際に行われてい 私が高畠町を訪れて探究の学習を行った際に高畠町 後の地元に戻ってくるかどうかが問題だと思います。 り就職する人です。しかし私は若者が県外へ流出 り、そのほとんどが高校卒業と同時に県外に進学した けています。また、多くの学校では地元の問題を題材 具体的にはその一環として小・中学校での紅花を用 番だと思う気持ちがあれば、そこに貢献したいと思う 側面ももちろん必要ですが、一番は故郷への誇りや地 ンを促すためには社会保障や雇用の充実など現実的 課題を知り、解決策を考えました。そして若者のU 転出は約一万六千人でその約四割を若年層が占め 測されています。また、 にした課題研究が広く行われています。私自身も紅 た染色体験を実施し郷土の伝統文化に触れる機会を設 る事例では、米沢紅花プロジェクトが挙げられます。 元への自信が必要だと気づきました。自分の故郷が ついての 課題研究をしていて紅花と米沢の 現在の実状では山形県の県外 関係 ター てお

進めることは地元にプライドを持つことにもつながり感を感じ、主体的に行動します。加えて、課題研究をつけることで人から聞いた話よりもより問題への危機ている方々がいることを知りました。自分で課題を見

つながると思います。
このように地元について知り関心を持つ取組みは郷このような活動を拡大していきそれぞれ個人が自分なりの課題を持つことで人口流出による問題を解決するための課題を持つことで人口流出による問題を自分事にしに自分には何ができるのかを考え実践していくことに自分には何ができるのかを考え実践していくことに言分には何ができるのかを考え実践していくことにいます。



專集要項・資料編や今までの優秀論文を右のQRコードからもご覧になれます。

# 審査講評

自らの進路を重ねて考えてくれた提案を、大変興味深く読ませていただきました。 第五 回の小論文コンテストには、七十八点の応募がありました。今回も多くの高校二年生が地域 の将来と

生き方を考える契機となっているか、論旨に説得力があるか、などを評価しています。 力を発信できているか、探求学習や職場体験などを踏まえた具体的で独創的な提案になっているか、自分の を食い止めたい。そのためにも自分が地元に残ることや都会で学んだことで地元を支えることが大切だ」。 その将来が危惧される。それで自然の豊かさや住みやすさを発信するなどして、地元を活性化し人口の減少 この提案のなかで、テーマ設定や展開がきちんと出来ているか、身近な事例や周りの状況を観察しその魅 ほとんどの応募者が次のような結論に到達しています。「自分たちの住んでいる地域の現状を観察すると、

にも現れました。 募して初めてこの課題に直面した者もいれば、既に解決に取り組んでいる者もいます。この間の格差が評価 回数を重ねるにつれ、 しかし、気付いて取り組むことが大切なので、是非今後も継続して取り組んでいただきた 情報検索や処理能力が上がり、全体的なレベルも上がってきています。 小論 文に応

いと思います。

とめ方もご指導 学校側にも探求学習、体験学習や職場体験などの機会を通してご指導いただくとともに、 区の全ての高校から本コンテストに応募いただければと願っています。 高校生にとって「地域の未来と自分の生き方を考える」という課題に取り組むことは大きな意義があります。 いただければありがたいと思います。 今回の応募は八校に留まりましたが、できれば置賜地 論文の書き方やま

# 置 賜地区高校生 「地域と私たちの未来を考える」 第五回小論文コンテスト

# 集 要 項

趣

旨 える契機になることを願い、実施するものです。 路に進むにしても大事なことです。当コンテストは高校生の皆さんが地域と自分の未来を考 事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることは、どのような進 未来はどうなるのか。二年後に進学・就職を迎える皆さんにとって、今まさに地域に育つ当 職で県外に出て、戻ってくる人が少ない「若者流出」があげられています。地域と私たちの 域全体の衰退に結びつくものと懸念されています。様々な要因の一つに、高校生が進学・就 少しています。このまま推移すれば、地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、 少子高齢化と共に近年日本の人口が減少する中、私たちの住む置賜地域も人口が確実に減

対 者 置賜地区高等学校二年生

「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」

テ

応募規程 ①募集要項の資料編や独自の資料を参考にして、テーマについて考えをまとめください。 各自の題名を付けてください。

③原稿用紙は縦書きに、 ②文字数は一二〇〇字以内(四〇〇字詰め原稿用紙三枚以内) 一行目に題名、二行目に学校名・氏名、三行目から本文を書いてく

ださい。題名、 学校名・氏名も字数に数えます。

①観察力 ④使用鉛筆はHB又はBを用い、字は大きく鮮明に書いてください。 現状を注意深く見て学習し気づきを得ているか。

五

審査の観点

21 -

②提案力 独創性に富み前向きな提案であるか。

③主体性 自分が課題解決にどのように具体的に関わっていくか。

④論理性 客観的、合理的な論理展開ができているか。

⑤表現力 この五つの観点を踏まえた小論文を書いてください。この観点で評価します。 誤字脱字がなく、 言いたいことを十分に伝えている文章であるか。

募集締切
各学校で指定する期日まで

七六

応

募

先

各学校の担当者まで

各学校から米沢有為会米沢支部事務局 0) 提出: 締 虭 Ĥ 九月六日 (火) [必着

十月二十九日(土) ホテル モントビュー米沢最優秀賞一点 優秀賞四点 入選五点

主催·共催 公益社団法人米沢有為会 学園都市推進協議審查委員長 米沢有為会会長 平山英三

**=** 二十九八

後援・協賛

表 表

彰

式

彰

置賜総合開発協議会 置賜地区高等学校校長会 会 米沢商工会議所 長井商工会議所



注 この募集要項・資料編や今までの優秀論文を右のQRコードからもご覧になれます。

# 資 料 編

■ はじめに、山形県及び置賜地区の人口の動きを、将来推計人口(資料1)と、令和2~3年の県外転入・転出状況(資料2)の二つの視点から見てみましょう。

# 資料1

## 山形県及び置賜地区市町別の将来推計人口

	2020年	2025年	2035 年	2045年	人口変化率	
					2045/2020 (%)	
山形県	1,072,473	1,015,910	897,075	768,490	72.7	
米沢市	81,986	77,483	67,817	57,720	70.4	
長井市	25,857	23,918	20,160	16,377	63.3	
南陽市	30,715	29,017	25,494	21,762	70.9	
高畠町	22,546	21,131	18,214	15,115	67.0	
川西町	14,228	12,783	10,148	7,655	53.8	
小国町	6,931	6,059	4,517	3,220	46.5	
白鷹町	13,030	11,918	9,839	7,797	59.8	
飯豊町	6,618	5,956	4,755	3,620	54.7	
置賜	201,911	188,265	160,944	133,265	66.0	

出典:国立社会保障・人口問題研究所

置賜地区では、2045年の人口が2020年と比較して34.0%減少すると推計されています。



# 山形県(置賜)の県外転入・転出状況(令和2年10月~令和3年9月)

 ※若年層とは15~24歳
 単位:人

 山形県の県外転入(置賜) [a]
 山形県の県外転出(置賜) [b]
 山形県の転出超過(置賜) [b-a]

 若年層(置賜)
 若年層(置賜)
 若年層(置賜)
 若年層(置賜)

 13,453 (2,290)
 3,913(619)
 16,733(3,026)
 6,810(1,322)
 3,280(736)
 2,897(703)

出典:令和3年山形県の人口と世帯数

令和2年~令和3年の山形県(置賜)の県外転入・転出状況は、3,280(736)人の転出超過です。 また、山形県(置賜)の若年層(15~24歳)の転出超過は2,897(703)人となっており、高校や大学等の卒業や就職を迎える若者の転出超過が多く、県人口減少の大きな要因になっています。



## 山形県の高校卒業者の県外への進学就職状況

単位:人

	卒業者数	大学等進学者	専修学校進学者	就職者数	計	県外の
		数(うち県外)	数(うち県外)	(うち県外)	(うち県外)	割合
令和2年度	9,791	4,515	2,157	2,755	9,427	57.3%
		(3,254)	(1,444)	(707)	(5,405)	
令和3年度	9,381	4,355	2,075	2,566	8,996	55.5%
		(3,142)	(1,339)	(512)	(4,993)	

出典: 令和3年度学校基本調査卒業後の状況調査山形県結果について

高校卒業者のおよそ55%余りが進学や就職で県外に出ていきます。

■ 置賜地域とはどのような地域でしょうか。それに関連する資料として、置賜総合支庁作成の『令和3年度 置賜地域の概況(令和3年7月)』があります。

資料 r3okitamagaikyo.pdf (pref.yamagata.jp)

また、山形(県)には、ゆとりのある暮らしと充実した子育て環境があります。「数字でみる山形」から見てみましょう。

資料 山形県の暮らし (yamagata-iju.jp)

次に、日本全体の「少子化の現状」と「地方からの人口流出の背景」を国の白書(いずれも URL)から見てみましょう。これらの資料は少し難しいかもしれませんが、挑戦してみてください。

## (1)日本の「少子化の現状」

内閣府資料 『少子化対策自書 (平成 29 年度)』第1部少子化への対処施策の概況 第1章少子化をめぐる現状 https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2017/29webgaiyoh/html/gb1 s1-1.html

### (2)日本の「地方からの人口流出の背景」

総務省資料 『情報通信白書(平成27年度)』「地方からの人口流出と東京圏への集中」「人口流出の背景」 https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/html/nc231120.html

■ 人口減少の一因である「若者流出」等の状況を統計データで見てきましたが、これに歯止めをかけるさまざまな対策が講じられています。それらの取組を紹介しましよう。



# 置賜圏域の将来像・・行政施策「置賜定住自立圏共生ビジョン」の取組例

置賜圏域は、歴史的背景や地理的要因から、行政区域を越えて生活圏を共有し、経済、教育、文化などの面で深いつながりを持ちながら発展してきた。これまで圏域内の各市町は、それぞれが活力ある地域づくりを実現するため、様々な取組をしてきたが、人口減少や高齢化は急速に進んでおり、今後もこうした傾向は続くものと予測される。この状況下で、地域の活性化を図り持続的に発展していくためには、単独自治体での事業展開には限界があることから、広域で連携し、効果的、効率的に行政運営を行うことが必要である。こうした認識のもと、置賜3市5町は、それぞれの独自性を維持しながら、地域の魅力をしっかりと磨き、その上で様々な分野において連携を深めつつ、住民の暮らしに必要な諸機能を圏域全体として確保することで、住民が暮らしやすい、活力ある圏域を創造し、共存共栄を目指す取組を行う。それが「置賜定住自立圏」というもので、米沢市が「中心市」、2市5町が構成市町となり協定を締結し、共生ビジョンに基づいて連携事業を推進する。具体的な取組として①生活機能の強化(医療、福祉、教育、産業振興、環境、水道、消防・防災)、②結びつきやネットワークの強化(交通、移住・定住・交流)、③圏域マネジメント能力の強化(職員等の交流)の3つの政策分野で取組を行う。

出典:米沢市 「広報よねざわ」 2019.5.1



### 若者定着・若者回帰に向けた県内の諸取組の紹介

## [事例1] 山形県と大学等との UI ターン就職促進協定 27大学等と協定を結ぶ

山形県では、山形県内の企業情報等の提供、大学内での就職ガイダンスの開催等について、大学等と連携して取り組むことにより、Uターン・Iターン就職の一層の促進をはかり、県内企業の人材を確保することを目的として実施している。

<協定締結大学> 東海大学、神奈川大学、専修大学、大東文化大学、日本大学、明治大学、 国士舘大学、駒澤大学、東洋大学、文教大学、立教大学、帝京大学、帝京大学短期大学、明 治学院大学、立正大学、拓殖大学、立命館大学、法政大学、千葉商科大学、神奈川工科大学、 関東学院大学、東京工科大学、日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校、日本工学 院北海道専門学校、東北学院大学、東北工業大学

出典:山形県雇用·産業人材育成課

### 「事例2] 山形県若者定着奨学金返還支援事業の実施

大学等へ在学の方又は進学予定の方を対象として、県と県内市町村が連携して、奨学金の返還を支援する事業。米沢有為会、長井教育会、飯豊町も市町村枠で実施。平成27年度から始まり今年度も継続。要件は日本学生支援機構の第一種奨学金(無利子)の貸与を受けている方又は受ける予定の方、米沢有為会、長井教育会、飯豊町奨学資金の奨学生。大学等を卒業後6か月以内に、山形県内に居住かつ就業し、山形県内の助成対象分野に通算して3年間就業した後、申請し、助成対象者に認定された時点で返還金の一部の助成を受けることができる。

出典:山形県産業創造振興課

## [事例3] 高校生就職希望者や就職者に対する地元への人材確保・定着の諸取組

置賜地区雇用対策協議会(行政機関[米沢市・南陽市・高畠町・川西町]やハローワーク等が連携し、若者の雇用安定を目指す団体)が、模擬面接会(高校3年生対象)や企業説明会(高校2年生の就職希望者に向けて企業動画を制作)、新規学卒者ビジネスマナー講習会や新入社員フォローアップセミナーなどの諸事業を実施。求人・求職者の両面からサポートし、雇用の確保と定着、就職支援に取り組んでいる。また、高校1年生を対象とした職業体験会(WAKU WAKU WORK)の開催など、進学者を含め地元にいるうちに地元企業を知ってもらう事業についても展開している。(令和3度は4校計416名の高校生を対象に実施)

# [事例4] 各高等学校における多様な取組

各高等学校においては課題研究や探究学習における地域学習の展開や、職場見学・体験、インターンシップの実施などを通して、郷土愛を育むとともに、社会的自立に向けた勤労観・職業観の育成を目指した多様な特色ある取組が行われている。

## [事例5] 働く人の様子・思いなどを SNS で発信

米沢商工会議所が、若手社員や経営者などへのインタビューにより地域で働く魅力を発信する「よねざわのわわわ」[URL:<u>米沢商工会議所 (jinzaikakuho-yamagata.info)</u>]プロジェクトを企画・実施。高卒就職者や県外大学へ進学後の U ターン、他地域からの I ターン事例など幅広い情報をインスタグラムや動画などで発信している。

## <米沢有為会からの一年早めの情報>・・奨学金と学生寮の募集案内

米沢有為会では、皆さんが再来年大学等へ進学した後の学生生活を応援するために

① 3 つのタイプの奨学金(貸与型:女子向け住居費補助奨学金 2 万円と一般貸費奨学金 4 万円、減免型:地元若者定着奨学金 4 万円条件を満たせば 2 万円減免 いずれも無利子)と

②東京と仙台に男子学生寮(平日朝夕2食付き、個室、月5万円程度)を用意しています。 今から情報をゲットしてみてください。

詳細は米沢有為会 HPで(QR コードからどうぞ!)



「地域と私たちの未来を考える」 二〇二二年度置賜地区高校生

第五回小論文コンテスト

# 優秀小論文集

会 長 平 山 英 三 発行者 公益社団法人米沢有為会 〒八二-000四東京都調布市入間町一-三六 東京興譲館内

ホーユページ http://www.yonezawa-yuuikai.org/ 電話·FAX 〇三-三三〇九-三三〇二